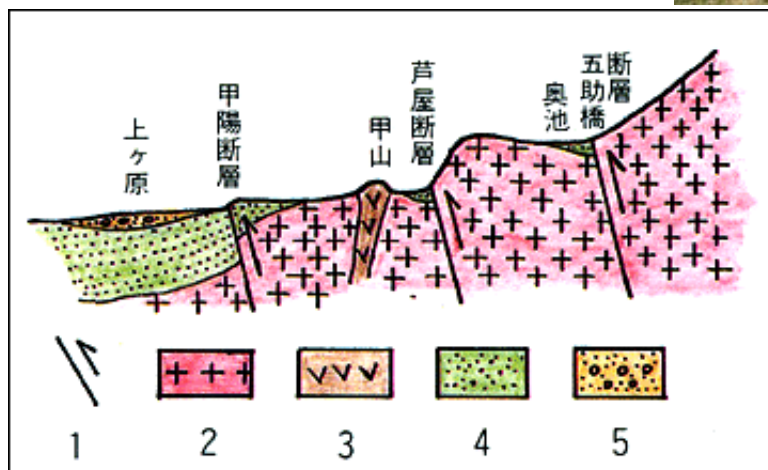




岩倉山近くでは道幅が広がる。



阪急電車の無線中継塔の下が
絶好の地形展望所である。



1. 断層
2. 花こう岩
3. 安山岩
4. 大阪層群
5. 段丘堆積物

岩倉山から南をみた地形と地質

六甲の上昇を物語る階段状の地形

さきほどみた奥池から東へ進み、甲山に下りてくる間の地形をみる。500m前後の花こう岩の平坦地から一気に250m前後の驚林寺の平坦地におりるが、その境には芦屋断層がある。さらに甲陽断層を境に上ヶ原段丘70mに移る。

図中の4の地層は約100万年前の大阪層群の第一海成粘土相当層（Ma 1）である。もとは同じ高さにあった地層が約100万年間に250m、500mの高所にまで地殻変動によって上昇したことを示している。



六甲上昇運動をよく示している東六甲の階段状地形



形からは活火山にみえるが、第四紀よりも古い第三紀にできた甲山



海側からみた東六甲の地形



六甲山地は岩倉山をすぎるあたりから急に低くなる





空から見ると山が落ちこむように町に沈みこむ。手前に全山縦走のゴール塩尾寺がある。



早春の塩尾寺は桜とツツジが美しい。



甲子園大学の近くでみた有馬 — 高槻構造線。
山麓を走る構造線が町と山とを分けている。



デジタル化 神戸の自然シリーズ 21 六甲山はどうしてできたか メニューへ